

高山社跡

日本の近代養蚕法の標準「清温育」を開発した場

歴史

高山長五郎は繭の増産と品質向上のための研究を行った人物で、換気と温湿度管理をきめ細かく行う「清温育^{せいおんいく}」を確立し、その普及のため1884（明治17）年に養蚕教育機関「養蚕改良高山社」を設立しました。高山社では、その学校に日本国内のみならず中国や朝鮮半島からも生徒を受け入れ、また現地に出向いて養蚕の指導を行う授業員の派遣も国内、中国、台湾、朝鮮半島に及びました。これにより「清温育」は日本の近代養蚕法の標準となりました。「清温育」の発祥地であるこの地は、長らく養蚕の実習場として利用されました。富岡製糸場が繭の改良運動を始めると、高山社は外国種や一代雑種の試験飼育、農家への飼育指導等に協力しました。



▲住居兼蚕室



▲長屋門



▲桑貯蔵庫

見どころ 風と火を操る蚕室

高山社跡には、「清温育」を行うための理想的な住居兼蚕室や、分教場時代の施設が残されています。

●住居兼蚕室

1891（明治24）年に建てられたもので、越屋根は田島弥平から学びました。換気のための工夫は、大きな掃き出し窓、欄間、蚕棚の下の通気口、すのこ状の天井などで、温度調節の工夫は一階の囲炉裏、二階の火鉢置き場、床面の通気口などがあります。二階の蚕室は6室に仕切られ部屋毎に温湿度の調節が可能でした。

●桑貯蔵庫

桑を一時的に保存する施設です。現在は地下の石積み部分が残りますが、かつてはこの上に建物が建てられていました。

●長屋門

江戸時代に建てられたもので、養蚕道具をはじめとする農具の保管や物置として利用されました。



▲蚕室内部

見学案内

場 所：藤岡市高山竹之本237
 見 学：9:00～16:00、団体は要予約
 休館日12月28日～1月4日
 交 通：JR群馬藤岡駅からバス約35分
 （フリー乗車区間のため高山社跡前で下車と申し出てください。）
 上信越自動車道藤岡I.C.から車で約20分。

※最新情報、団体予約は下記問い合わせ先へ。
 問い合わせ：藤岡市文化財保護課 TEL 0274-23-5997
 ウェブサイト：<http://www.city.fujioka.gunma.jp/>

